

ステップ1 添付品を確認する

梱包箱を開け、次の添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード ×1
- ソフトウェアパッケージ *2
- セキュリティキー（本体背面に貼り付けられています）
- お客様登録申込書
- 5インチデバイスレール×4 *3
- デバイス固定用ミリネジ×8 *3
- 保証書（本体梱包箱に貼り付けられています）
- 使用上のご注意
- ユーザーズガイド *1
- スタートアップガイド（本書）


*1 ユーザーズガイドは「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内に格納されています。これを参照するには、Adobe Readerが必要となりますので、あらかじめご使用のPCへインストールしておいてください。

*2 ソフトウェアパッケージの内容については、ソフトウェアパッケージ内の構成品を参照してください。

*3 ご購入になった本体装置構成により、本体に実装されている場合があります。

ステップ2 適切な場所に設置する

本体の設置場所を決めます。

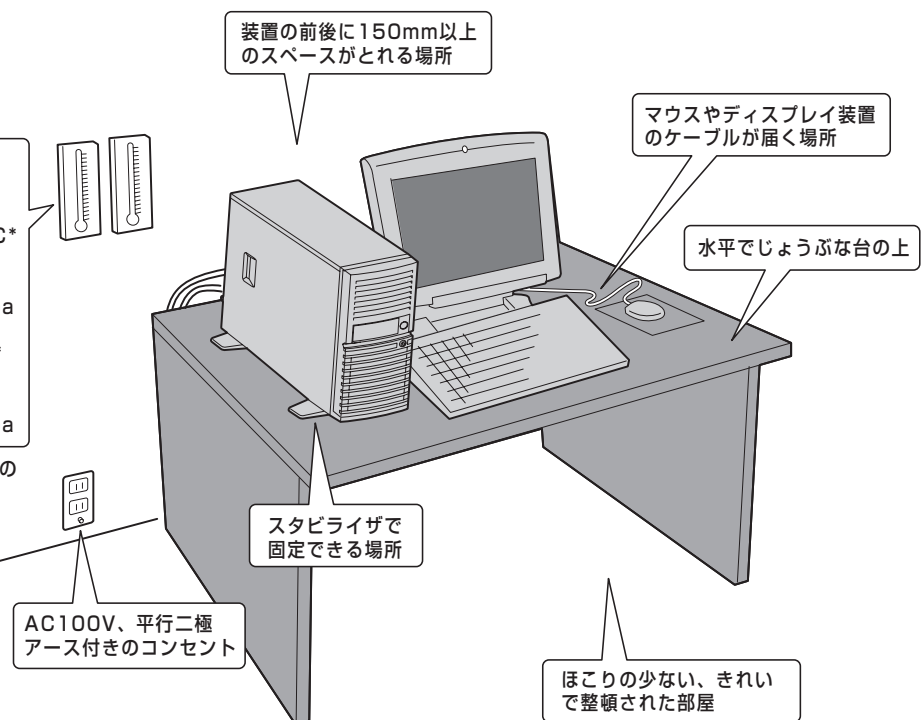
 **参照** 「ユーザズガイド」の2章「セットアップ」を参照してください。

以下の環境条件を
満たした場所

<動作時>
室内温度：10℃～35℃*
湿度：20%～80%
温度勾配：±10℃/時
気圧：749～1040hpa


<休止時>
室内温度：5℃～40℃*
湿度：10%～80%
温度勾配：±15℃/時
気圧：749～1040hpa

* 室内温度15℃～25℃の範囲が保てる場所での使用をお勧めします。



ステップ3 ケーブルを接続する

ネットワークケーブルと付属の電源コードを接続します。

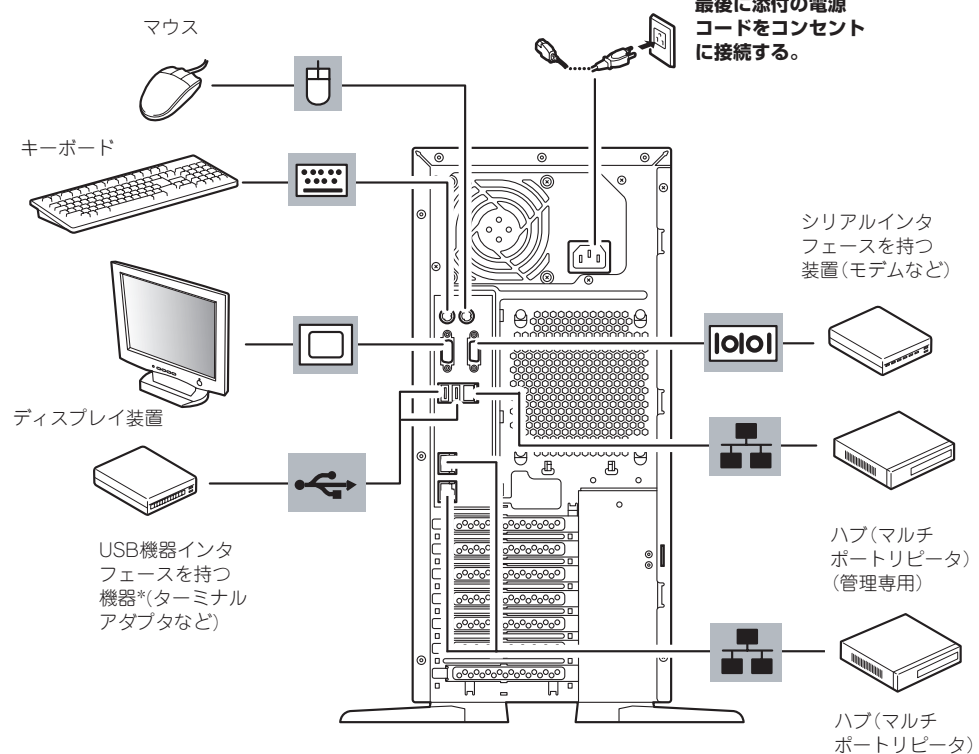
 **参照** 「ユーザズガイド」の2章「セットアップ」を参照してください。



- 本体に接続するケーブルは、LANケーブルと添付の電源コードのみです。その他のケーブルを接続する必要はありません。また、複数のケーブルを接続するときは、まずLANポート1のみに接続して初期設定を行い、設定完了後に残りのコネクタに接続してください。残りのコネクタに接続するときは、LANポート番号の小さい順に接続してください。
- 本装置への各種オプションの取り付け・取り外しは、本書で示すセットアップが完了した後に行ってください。

＜本体背面＞

最後に添付の電源コードをコンセントに接続する。

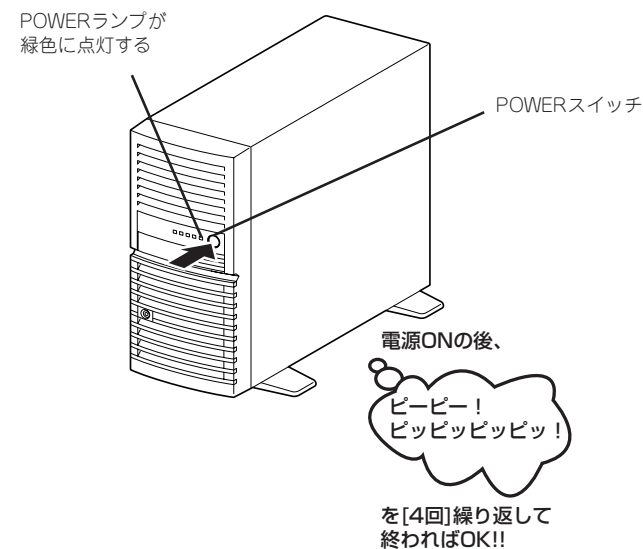


ステップ4— 電源をONにする

電源をONにします。

- 1 本体のLANポートコネクタとネットワーク環境として使用するHUBにLANケーブルが接続されていることを確認する。
- 2 POWERスイッチを押して、システムの電源をONにする。

システムの起動後、ビープ音のパターン(ビープ音を2回長く4回短く)を4回繰り返したら、正常に起動したことになります。



以上で設置作業は完了です。

引き続きシステムのセットアップをします。

裏面をご覧ください。▶▶▶▶▶

▶▶▶▶▶ 表面からの続きです。

ステップ5

初期設定をする

管理PCからリモート接続できるようにするために、本装置の初期設定を行います。

重要 出荷時にパスワードが設定されています(出荷時のパスワードについては、本装置に添付されているスタートアップガイドに記載されています)。

本体内蔵のLANポート1に割り当てる情報として、「コンピュータ名」、「IPアドレス*」、「IPアドレス用のサブネットマスク*」を用意してください。

- IPアドレスとサブネットマスクは、設定およびリモートデスクトップ接続を行うWindowsマシン(管理PC)と同じネットワークになる値にしてください。
- 設定を行うWindowsマシン(管理PC)が、Windows 2000 の場合は、事前にリモートデスクトップのインストールを行ってください。
リモートデスクトップは、Windows XP の OS 媒体に格納されています。または、マイクロソフト社のホームページ(<http://www.microsoft.com/japan/>) にアクセスし、「Remote Desktop Connection Software」のキーワードで検索して入手してください。

- 初期設定ツールからリモートデスクトップを起動する場合は、「C:¥Program Files¥Remote Desktop"のフォルダにリモートデスクトップがインストールされている必要があります。もし、別のフォルダにインストールしている場合は、以下の設定を行ってください。

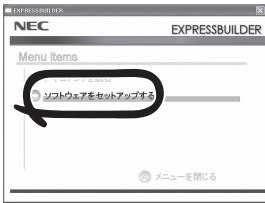
初期設定ツールを起動した際にWindows フォルダに生成される"iStorageNSSetup130.ini"というファイルを開き"RdesktopPath"に記述されたファイルパスを正しいリモートデスクトップのインストールフォルダに変更してください。

初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にある Windowsマシン(Windows 2000+IE6.0/Windows 2003/Windows 2008/Windows XP/Windows Vista)と添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。

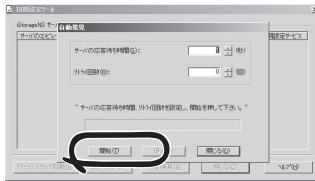
参照 詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照したい場合は、以下のファイルを開いてください。
[EXPRESSBUILDER]CD-ROMの¥007¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

- 任意のWindowsマシンの光ディスクドライブにEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットする。
オートラン機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、光ディスクドライブ内の「¥autorun¥dispatcher.exe」を実行してください。

- [ソフトウェアをセットアップする]から[初期設定ツール]をクリックする。
初期設定ツールが起動し、エンドユーザーライセンス契約(EULA)の確認画面が表示されます(初回のみ)。



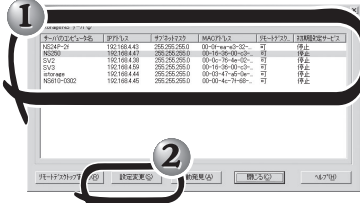
- EULAを確認の上、同意する場合は[はい]をクリックする。
自動発見ウィンドウが表示されます。



- [開始]をクリックする。
iStorage NSの一覧が表示されます。
- iStorage NSの一覧の中から、設定したい装置を選択する。
コンピュータ名が初期値のままの装置は、「未設定」と一覧に表示されます。

- リモートデスクトップ起動の表示が「不可」の場合は、[設定変更]をクリックする。

表示が「可」の場合は、リモートデスクトップによる設定が可能となりますので、[リモートデスクトップの起動]をクリックしてください。リモートデスクトップによる設定は、「ステップ 6 管理PCからリモートデスクトップ接続を行って設定する」を参照してください。



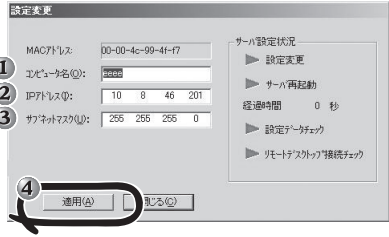
重要 初期設定ツールからの設定変更を中断した場合、しばらく間を置いた上で再度自動発見を行ってください。

- [コンピュータ名]欄にコンピュータ名を入力する。
重要 ネットワーク上に同一のコンピュータ名を持つマシンが存在すると、設定変更後の再起動ができなくなります。コンピュータ名が重複していないことを確認してください。

- [IPアドレス]欄にIPアドレス、[サブネットマスク]欄にサブネットマスクを入力する。

- IPアドレスの設定に間違いがあると、設定変更後の再起動や、管理PCからのリモートデスクトップからの接続ができない場合があります。IPアドレスに誤りがないことを確認してください。
- 設定するIPアドレス/サブネットマスクは、初期設定ツールを動作させているマシンと同一ネットワークになるように設定してください。

- [適用]をクリックする。



- 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK]をクリックする。
サーバ設定の変更が始まり、サーバ設定状況の内容が順次更新されます。

- 完了メッセージが表示されたら、[OK]をクリックする。

以上で、本装置の初期設定が完了し、管理PCからのリモートデスクトップ接続ができる状態になりました。

参照 初期設定ツールにおいて、設定変更ができないなど、問題が発生した場合は、初期設定ツールのヘルプの「トラブルシューティング」を参照してください。

ステップ6

管理PCからリモートデスクトップ接続を行って設定する

本装置と同じサブネット上にあるクライアントマシン(Windowsマシン)で必要事項を設定します。

参照 設定方法の詳細については、ユーザーズガイドを参照してください。

- クライアントマシン上でリモートデスクトップを起動する。
- 接続先に本装置のコンピュータ名を入力する。
コンピュータ名での名前解決が出来ない場合は、コンピュータ名ではなくIPアドレスを入力してください。



- ユーザー名に「administrator」を入力し、次にパスワードを入力して[OK]をクリックする。
出荷時のパスワードについては、本装置に添付のスタートアップガイドに記載されています。
- ユーザーズガイドや注意制限事項、および管理者ガイドを参照して必要事項を設定する。

重要

以下の設定を行ってください。

- 日付と時刻の設定
- サーバー名(コンピュータ名)の設定(初期設定ツールでコンピュータ名を設定済みの場合は不要)
- WORKGROUP/ドメイン参加の設定

ステップ7

パスワードを変更する

本装置のセキュリティを保つためにパスワードの変更は必ず行ってください。

出荷時にパスワードが設定されています(出荷時のパスワードについては、本装置に添付されているスタートアップガイドに記載されています)。

重要 本装置のセキュリティを保つために、パスワードの変更は必ず行ってください。

ステップ8

ESMPROをセットアップする

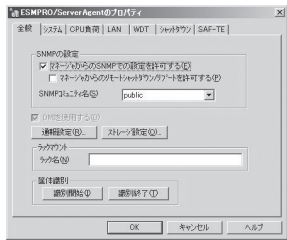
NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェア「ESMPRO®」のセットアップをします(その他にもディスクアレイを管理するソフトウェアなどがあります。詳しくは「ユーザーズガイド」を参照してください)。

本装置には、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」がバンドルされています。

ESMPRO/ServerAgent

iStorage NSシリーズの内部温度やファン、ハードディスクなどの状態監視やサーバに異常や障害が発生したときに自動的に本装置の電源をOFFにしたり、本装置監視用コンピュータやページャへの通報などを行うユーティリティです。

参照 設定方法については、ユーザーズガイドを参照してください。



ESMPRO/ServerAgentをインストールした装置の状態は管理PC(ESMPRO/ServerManager)のディスプレイから確認することができます。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerManagerはiStorage NSシリーズと同一のネットワーク上にある管理PCにインストールするソフトウェアです。

「EXPRESSBUILDER」JCD-ROMを光ディスクドライブにセットして表示されるメニューから[ソフトウェアをセットアップする]→[ESMPRO]の順にクリックします。以降は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

iStorage NS連携モジュール

ESMPRO/ServerManager(Ver.5未満)がインストールされている環境にiStorage NS連携モジュールを適用することで、ESMPRO/ServerManager(Ver.5未満)より、リモートデスクトップ接続が起動できます。「EXPRESSBUILDER」JCD-ROMを光ディスクドライブにセットして表示されるメニューから[ソフトウェアをセットアップする]→[iStorage NS連携モジュール]の順にクリックします。以降は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

以上ですべてのセットアップが完了です。

お読みください

OS再インストールの前に

OSの再インストールを行う際に、ディスクアレイ構成を変更したり、ベーシックディスクへ戻したりすると、ハードディスクドライブ上のデータはすべて削除されます。また、誤った手順を実行すると、ハードディスクドライブ上のデータがすべて削除される危険性がありますので、再インストール作業の前に、必ず必要なデータを外付けバックアップ装置などにバックアップしてください。

RAIDシステムの構成を変更した場合

RAIDシステムの構成を変更した場合、ユーザーズガイドを参照して、RAIDシステムのコンフィグレーション情報をバックアップしてください。

電源制御機能の使用について

本装置には電源制御機能をサポートしていないアプリケーションが含まれています。スタンバイ/休止状態で運用しないでください。

本装置のシャットダウン操作について

本体のPOWERスイッチを使って本装置をシャットダウン(電源OFF)しないでください。シャットダウンは、管理PCからリモートデスクトップ接続し、シャットダウン操作を行ってください。UPSに接続している場合は、UPSの管理ソフトウェアを利用したスケジュールシャットダウンを利用することもできます。

本装置のドキュメントについて

管理者ガイドおよびユーザーズガイドは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されていますが、改版されることがあります。最新版は以下にてダウンロードできますので、ご確認をお願いします。

[NEC iStorage NSシリーズサポート情報]
<http://support.express.nec.co.jp/istorage/>

[補足]

上記 URL にて "キーワードから探す" を選択し、テキストボックスに製品名とガイド名を入力して検索してください。

iStorage NSシリーズのご利用にあたって

iStorage NS シリーズでは、基本となるサポート情報を以下のサイトに公開していますので、定期的にご参照頂くか、RSSの配信登録を行い、製品をメンテナンスされることをお勧めします。

<http://support.express.nec.co.jp/istorage/>

また、有償の保守サービスとして「PP・サポートサービス」を準備しております。本サービスをご契約いただくと、電話や電子メールなどでのお問い合わせ、ご契約者様専用IDでのWebサーバへのアクセスなどが可能となり、ソフトウェアのQ&Aや技術情報などをご覧いただけるようになります。また、ソフトウェアのリビジョンアップ情報の提供などもご契約者様だけのサービスとなります。

「PP・サポートサービス」の詳しい内容については、以下をご覧ください。

<http://www.nec.co.jp/service/support/pp/index.html>



商標について

ESMPRO、DianaScopeは日本電気株式会社の登録商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 2009
NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。
このマニュアルは再生紙を使用しています。